のことについて取り組んでいきます

魅力を掘り起こし、

観光客に楽し

『観光商品づくり』

とは、

地域の

十和田市DMOは、

主に次の4つ

十和田市DMOが取り組むこと

『観光商品づくり』

間観光推進課☎⑤6772

要な取り組みが観光開発、

特に

『観

して選ばれる地域、

「稼いで潤う」

中でも、

十和田市DMOが担う重

を観光商品化することは、 られる一つとなることから、

旅行先と

地域になるチャンスといえます

好循環の促進で

「稼いで潤う」

観光

にとって、

その地域の「日常」

は

「非日常」であり、

「魅力」を感じ

数用意することが必要です。

日本・世界各地から訪れる観光客

まなニーズに応えられるプランを多

旅行先に選ばれにくいため、

過ごし方の選択肢が少ない観光地は

情報を発信していない観光地や、

手配する時代に変化しています。 体験プランなどもあらかじめ自分で

(地域への還元)

取り組み4

世界への魅力の発信

(プロモーション/

、インバウンド対応)

取り組みる

だ観光地づくり(観光商品づくり) 十和田湖・奥入瀬・市街地をつない 取り組み2

(観光開発/

、地域の巻き込み)

 \supseteq

ケティング)

ケティングに基づく戦略策定

代から、

今は個々にインタ

ネッ

などで情報を収集し、

交通や宿泊、

自らが販売することです

旅行形態は一昔前の団体旅行の時

でもらえる体験プランを商品化し、

取り組み1

光商品づくり』になります

景色や温泉

さまざまな資源の 組み合わせによる 観光商品づくり

農業体験など

食の魅力

飲食店

街歩き

その他

どの調達、

Aの土壌診断施設を見

用品店に立ち寄り、

ヤッケや手袋な

▶手軽に、地域のさまざまな体験ができる ▶旅行先での過ごし方の選択肢が増える

施設見学

7クティビテ

交通

観光客のメリット

地域のメリット ▶さまざまな事業者が参画することで「稼いで潤う」 地域の好循環が生まれる

として、 商品づくり』 ています。 「とわだ旅向上座談会」を街なか 力が提案され、 焼山 観光に関わる人たちによる その中で、 平成29年6 のための情報交換の場-成29年6月から『観光 十和田湖で開催し いくつかモニタ 地域の新しい

ウマジン姿で商店街を巡り

紹介する体験プラン

にくの植え付け体験のほか、農作業ンでは、日本一の生産量を誇るにん

魅力的な 『観光商品づく ij

ノランが生まれました。

十和田の豊富な農畜産物を

組み合わせたプランです。このプラ 一つは、農業体験と夜の街歩きを

産物や十和田湖ひめますの生産現場

体験の講師を務め、 食事の特別メニュ

入瀬(焼山)地区の2軒の宿が参画食事の特別メニューの考案を含め奥

す。んと一体となって取り組んでい

れる豊かな資源をつなぎ合わせる

十和田市DMOでは、

本市にあふ

『観光商品づくり』に、

市民の皆さ

市内の2事業者が

このプランで

2カ所を回り、

多くの魅力を観光客

に紹介できるプランとなりました。

飲食店3軒、

商店・直売所4軒、

農

2日間の行程で、

市内の農家2軒

学して、 和田の自慢の野菜や地酒を味わうと あるウマジンを被って、 では、コミュニケーションツ るメニューにしました。 など、さまざまな体験・ の見どころを巡ったり、 いう楽しみをプラスしま こだわりの土づくりを学ぶ 居酒屋で十 中心商店街 夜の街歩き 体感ができ ルで

奥入瀬渓流にある植物 (樹種)

蒸留に使った植物は、奥入瀬渓流で

採取したものではなく、市内の国立 公園エリア外で調達しています。

観光ガイドを活用した各種ツアー

五感で楽しむ!プラン晩秋から初冬の奥入瀬渓流を

しまし

た。

これまで無料

この他にも

感でとことん堪能するプランとしま ニューに取り入れるなど、 帰る体験、 て取り出 楽しむをテーマに、 奥入瀬渓流に自生する植物の香りを のカツラの葉やクロモジの枝など、 減ってしまいます。そこで、 葉が過ぎると、 問わず楽しむことができますが、 して、 に注目して打ち出すプランです。 もう一つは、 奥入瀬渓流の自然美は、 奥入瀬渓流の魅力を「香り」 した香りを容器に入れ持ち 香りを食事の特別メ どうしても観光客は 紅葉後の誘客対策と 学びや、 自然を五 紅葉後 蒸留. 季節を 紅 本

> みにも取り組 有償化する試 立させるため 生業として成 観光ガイドを 提供してきた または安価で

んでいます

循環を目指-とて 底上げと地域の好

経済波及効果の好循環が生まれるこ それにより、 の事業者の参画による商品ができ、 り』で目指すところは、 十和田市DMOが 観光産業の底上げと、 『観光商品づく 幅広い地域

とです となる可能性を秘めています。 以上に地域経済を支える重要な産業 観光は、 本市にとって、 これまで

の他にも、 な資源がたくさんあります ろいろな商品など、 人との触れ合い、 本市には、 おいしい食べ物や、 十和田湖・ まだまだ魅力的 商店街にあるい 奥入瀬渓流 地元

 \mathcal{O}

さまざ それら ゼーションの略で、観光地域づくりを推進する組織のことです

がなぜ必要? ※「DMO」とは、デスティネーション・マーケティング/マネジメント・オーガニ

についてお知らせ

中でも柱

広報12月号では、

「DMOが必要となった背景」

しましたが、

今号では、

十和田市DMOが取り組むこと、

せします。

となる地域が潤うための仕掛け『観光商品づくり』についてお知ら

取り役となる『十和田市DMO』

の設立に取り組んでいます。

「稼いで潤う」地域づくりの舵

これらの

資源を組み合わせ、

観光を軸として、

豊かな農業資源など数多くの魅力があります。市では、

Berut

本市には、

十和田湖・奥入瀬渓流や、

中心市街地に位置する現代美術